

令和５年第１回(３月)定例会一般質問 小児医療について

〇１１番(中島章二君) [登壇]

おはようございます。通告に基づき、市政に対する一般質問を、１、日田市の小児医療について、２、教職員の働き方改革についての２項目について行います。

１項目めの日田市の小児医療についてから質問いたします。

現在、少子化、そして、超高齢社会への進展、本格的な人口減少、疾病構造の変化や医療従事者の不足など、医療を取り巻く環境は厳しさを増しています。さらに、災害時における要配慮者への支援など、地域医療に対するニーズは多様化、複雑化、高度化しています。これらの課題に加えて、長期化した新型コロナウイルス感染症拡大は、地域医療の維持、確保に大きな影響を与えています。

大分県において令和３年３月に出された第７次大分県医療計画の中間見直しによると、小児医療についての現状として、大分県の最近５年間の死亡率の平均値を年齢階級別に見ると、ゼロ歳以上５歳未満の人口１０万人当たりの死亡率は４９.５、そのうち心疾患やがんなどの病気による内因死亡は４４.６、事故や外傷などの外因死亡が５.０となっており、この年齢層では約９割が内因死亡となっています。

また、５歳以上１０歳未満では、１０万人当たりの死亡率は１１.１で、そのうちの内因死亡が７.４、外因死亡が３.７となっています。さらに、１０歳以上１５歳未満では、１０万人当たりの死亡率は９.７で、内因死亡が６.１、外因死亡が３.６となっています。５歳以上１５歳未満の年齢層では、事故や外傷などによる外因死亡が約４割となっているとあります。

小児科は、小児期における重大な死因の一つである不慮の事故を背景とした外傷、溺水、熱傷、中毒などの高次救急から、高い専門性が要求される循環器、血液、腫瘍、神経、内分泌、腎臓などといった内科的疾患、そして感染症までと、幅広い領域への対応が必要とされます。

このような中、計画では、今後の施策として、安心して子供を産み、健康で元気な子供が育つために家族を支援する体制づくりとして、子供の事故防止や乳幼児突然死症候群予防対策、予防接種の意義について、保護者、保育関係者に対して広報、普及啓発を行う。また、小児患者に対して、その症状に応じた対応が可能な体制づくりでは、地域の小児医療を行う診療所及び病院が連携して、休日、夜間の小児初期救急医療体制を確保する取組を支援する。

このような計画が出されている中で、本市においては、令和３年９月に策定され、令和４年７月に変更された日田市過疎地域持続的発展計画では、医療の確保という項目の中で、地域医療の対策として、地方都市特有の小児科医及び産科医の不足により子育てに不安を持つ人が増加していることから、中核病院と連携を図りつつ、医師不足の解消に向けた対策について検討していくことが明記されています。

そこで、本市における小児医療体制についての現在の状況と今後の医療体制について質問いたします。

まず、本市における小児医療機関数と医師の人数と推移をお伺いいたします。あわせて、日田市と類似している自治体との比較についてお聞かせください。

先ほどの施策にもありました、休日、夜間における小児科当番医について、本市においての対応をお聞かせください。また、地方都市特有の小児科医不足や地域偏在を課題と捉える状況の中、本市において将来的にさらなる小児科医の不足が予想されますが、小児科医不足に対する取組や対応について伺います。

日田市が将来的に安心して子育てできるまち日田となるために必要とされる、本市における今後の小児医療体制構築の考え方をお伺いいたします。

○議長（石橋邦彦君） 福祉保健部長。

○福祉保健部長（松岡政則君） [登壇]

私からは、11番議員さん御質問のうち、日田市における小児医療についてお答えします。

初めに、小児科の医療機関数、医師数についてでございますが、日田市内の現在の小児科の医療機関数は4医療機関、医師の人数は5名でございます。

なお、その推移につきましては、平成21年に1医療機関が新設され、それまでの4医療機関と合わせて5医療機関になり、医師数は6名となっております。平成27年には、そのうち1つが廃院となり、別の医療機関の医師も1名減ったことから4医療機関、医師数4名となりました。その後、平成29年に医師が1名増員となりましたことから、現在の4医療機関、医師5名となっております。

なお、大分県内で日田市と同規模自治体である中津市と佐伯市の小児科の医療機関数と医師数でございますが、中津市は9医療機関、医師数は15名、佐伯市は3医療機関、医師数は5名とのことでございます。

次に、夜間、休日当番医における小児診療の対応についてでございますが、原則、小児科医以外の医療機関が当番医であっても、小児の診療について対応することとなっております。ただし、当番医での対応が困難な場合には、済生会日田病院が小児救急医療として受け入れる体制となっております。

続きまして、小児科医の不足に対する市としての取組や対応及び小児医療体制構築の考えについてでございますが、市といたしましては、医師不足など、今後の小児医療体制に不安をお持ちの方がいらっしゃることは認識しており、現在の夜間、休日を含めた小児医療体制を将来にわたり維持していくことの必要性は感じているところでございます。

また、安心して子育てできる医療体制を構築することは重要であると考えており、夜間、休日にも受診できる専門の医療機関の設置が望ましいと考えられますが、医師の確保などの理由により、実現はかなり困難であると考えます。

そこで、先ほど申し上げましたように、済生会日田病院におきまして、夜間、休日に小児の救急患者を受け入れる体制が取られており、市もその運用に対する補助を行っているところでございます。

今後も、県や市医師会、また、済生会日田病院とも連携して、小児医療体制の維持、充実に努めてまいりたいと考えているところでございます。

私からは以上でございます。

○議長（石橋邦彦君） 11番 中島議員。

○11番（中島章二君） それでは、再質問に移らせていただきます。

まずは小児医療についてですが、改めまして、確認の意味でお聞かせいただければと思います。休日、夜間において、子供が発熱などで医療機関において受診をしてもらいたいときには、保護者の皆さんは受診までにどのような行動を取ることが必要なのかお伺いさせてください。

○議長（石橋邦彦君） 福祉保健部長。

○福祉保健部長（松岡政則君） 休日、夜間における小児救急の受診までの保護者の対応でございます。

お願いしているのは、まずは子供の症状ごとの対応方法が掲載されております「小児ハンドブック」というものがございます。これ、出生届ですとか未就学のお子さんが転入されてきたときにこちらのほうでお渡しをしている冊子でございますけれども、まずはそれを参考にさせていただく。それから、日本小児科医会が開設をしております「こどもの救急」ホームページというものがございますので、それを活用させていただく。それから、夜間、休日に看護師のほうが対応いたします「大分県こども救急電話相談」というものがございます。これも夜間ですとか休日に空いている電話相談でございますけれども、そういったところでまずは御家庭のほうで見ていただいて、それでもなかなか対応が難しいというような場合につきましては、夜間休日当番医に連絡をして受診をしていただくということをお願いをしております。

なお、夜間休日当番医でも対応が困難なような場合があれば、小児救急医療として済生会日田病院が受け入れると、そういった体制も取っているというところでございます。

以上です。

○議長（石橋邦彦君） 11番 中島議員。

○11番（中島章二君） まず、お子さんが発熱等を起こした場合、発熱等があった場合に、保護者の皆さんは慌てた状況で子供をどうすればいいかということをお悩まれる。核家族化が進んでいる状況で、おじいちゃん、おばあちゃんにも尋ねられない、近所の方にも尋ねられないという状況がある中で、今、部長がおっしゃっていただいたハンドブック、それからホームページ、電話相談等があるということが周知、また、徹底できているかということをおちょっと私不安なところを感じていますが、こちらの周知、徹底については、部長のほうはどういうお考えをお持ちでしょうか。

○議長（石橋邦彦君） 福祉保健部長。

○福祉保健部長（松岡政則君） 先ほど私が申し上げた内容につきましては、先ほど、出生届が出て来られたとき、それから転入があったとき等、そのハンドブックをお渡しする場面とか、いろんな健診の相談のときとか、そういったときに周知は、徹底はしているところではございますけれども、これはまた常に続けていきたいというふうに思っております。

○議長（石橋邦彦君） 11番 中島議員。

○11番（中島章二君） 保護者の方は、子供が容体が悪いというときには非常に慌てている状況だと思います。こういったことでハンドブックを見ていただいてもなかなか即座に対応できない、それから、どこに電話すればいいかというところ、ホームページを見るという、そういう状況でもなかなか対応できないのではないかと想像しています。こういったところで、いわゆる夜間、休日においても安心して子供を診ていただけるという医療機関が必要ではないかということを強く思いまして、今回質

問させていただいているところですけど、それでは、現在、市民の方から休日、夜間、診療を行っている場合、困りや要望等、市のほうへ上がっているのか、上がっているのであれば、そういう内容をお聞かせいただければと思います。

○議長（石橋邦彦君） 福祉保健部長。

○福祉保健部長（松岡政則君） 保護者の方から子供さん方の急な発熱等の診療に対して御意見というところでは、保健師等から乳幼児健診、それから赤ちゃん訪問をしたときに聞いたことということではございますけれども、突然の発熱が出て休日当番医等に連絡をして行こうとしたときに、専門外である場合がございますので、そこでなかなか詳しいところまでは診れないというところがあって、先ほどの救急のほうに回ったりとか、それから、そこで応急の対応ができたとしても、その後の詳しい診療、そういったものが市内ですればというような御意見とか、そういったものはお伺いをしているというふうに聞いております。

○議長（石橋邦彦君） 11番 中島議員。

○11番（中島章二君） 確認です。済生会病院さんのほうは、いわゆる一次診療といいましょうか、最初の一般の医療機関で診ていただいた後で、緊急性がある場合に紹介という形で済生会に連絡があった場合には受診ができるという形になっているのか。それとも、なかなかうちでは診れませんよということがもしあるのであれば、保護者の方が済生会病院に連れていっても診ていただけるのか。その部分の確認をさせてください。

○議長（石橋邦彦君） 福祉保健部長。

○福祉保健部長（松岡政則君） 済生会さんにつきましては、いわゆる平日の日中の場合には、もう通常の病院と同じように連れていくということが可能、対応できるということのようでございます。ただ、夜間とか休日については、夜間休日当番医がございましたので、まずそちらということで、そこで対応できない場合が救急で済生会のほうにということになっております。

○議長（石橋邦彦君） 11番 中島議員。

○11番（中島章二君） 先ほどの御答弁の中にもあったんですけど、小児科という医療機関、医療については非常に多様な部分があって、なかなか一般の医療機関では診察を受けられないというような状況もあったことがあるということをお聞きしているんですけど、済生会病院さんのほうに行けば、夜間、休日でも小児医療として受診ができるような今状況になっているんでしょうか。確認です。

○議長（石橋邦彦君） 福祉保健部長。

○福祉保健部長（松岡政則君） 夜間、休日につきましては、その体制が出来上がっております。医師のほうにつきましては、オンコールで対応という場面もございますけれども、出来上がっていると。そこで、済生会でも対応できない場合につきましてはまた違う病院のほうに、県外の病院だとか、そういうところにまた回っていくこともあるということでございます。

○議長（石橋邦彦君） 11番 中島議員。

○11番（中島章二君） 今、部長おっしゃっていただいたように、私のほうもどうしても市内で受診ができない状況があって、県外の病院を探していただいたほうがというようなことを伝えられた保護

者の方もいらっしゃるということをお聞きしています。こういった部分で、保護者の方は日田市内で安心して子育てできる状況になっているかということを不安に感じられているということをお伺いしました。この現状、小児科医の不足等、いろいろ問題があるかと思います。課題があるかと思いますが、早急な対応をいろいろな工夫をしていく必要性があるのではないかと考えているところでございます。

今、市民の方から困り等が出てきているということでお話がありましたけど、日田市としてこれに対応する施策等、また、現在行っている対応等についてあればお聞かせいただきたいと思います。

○議長（石橋邦彦君） 福祉保健部長。

○福祉保健部長（松岡政則君） まず、市のほうで行っているものとしたしましては、先ほどから申し上げておりますけれども、小児救急医療の体制、これを構築をしておるということと、登壇でも申し上げましたけれども、小児科の先生方、将来的にも日田市のほうでいらっしゃる状態をずっと続けていく、今後もその体制を取れるように準備をしていくということが、今、市のほうで行っている状況でございます。

○議長（石橋邦彦君） 11番 中島議員。

○11番（中島章二君） 今現在、4医療機関で5人の先生方がいらっしゃるということですけど、今後、5年後、10年後を見ていくと、小児科の先生が増えるかということ、このままでは減っていくのではないかとことを非常に懸念しております。早い段階で小児医療の体制は改めて構築する必要性があるかと思うんですが、今、現状、日田市として小児医療体制、今後、5年後、また、10年後について予測しているような状況がもしあるのであればお聞かせいただきたいんですが。

○議長（石橋邦彦君） 福祉保健部長。

○福祉保健部長（松岡政則君） 具体的に何らかの推計をして、それをやっているということはございませんけれども、それに関係なく、今の体制を維持していくということ、また、それ以上のものができればということも含めて、検討していくことは必要だというふうに思っております。

○議長（石橋邦彦君） 11番 中島議員。

○11番（中島章二君） 日田市のほうは子育てしやすいまちづくりということ、支援拠点もそうですが、子供の周囲にはいろんな課題があるかと思います。妊娠期から18歳になるまで、大人になるまでしっかりとした対応をしていく中で、小児医療という部分が非常に大切ではないかと考えています。こちらについて、市民の方から今後意見なりお声を聞く機会を設けるというようなお考えがあるのかお聞かせいただきたいと思います。

○議長（石橋邦彦君） 福祉保健部長。

○福祉保健部長（松岡政則君） 今のところ、それに特化したといいますか、そういったところの予定はございませんけれども、今後のいろんな市のほうの事業計画をやっていく中でも、その辺の実態を把握していくことは必要だというふうに思っております。

○議長（石橋邦彦君） 11番 中島議員。

○11番（中島章二君） 日田市特有の周辺部等、旧郡部等、医療機関少ない部分、それから、済生会にやってくるにしても、子供の状況が熱があって例えば嘔吐をしているような状況であれば、な

かなか連れてくることも大変なことが予想されます。そういったことも含めまして、私のほうは市民の方から早い段階で意見等を聞いていただいて、小児医療について日田市が取り組むべき内容を整理する必要があるかと思いますが、こちらについては早急に行うということをおっしゃっていただければと思いますが、部長、いかがでしょうか。

○議長（石橋邦彦君） 福祉保健部長。

○福祉保健部長（松岡政則君） そういった対応も含めて検討させていただきます。

○議長（石橋邦彦君） 11番 中島議員。

○11番（中島章二君） 小児科医療に関しては、内容にもよるかと思いますが、先ほども申し上げました核家族化や相談できる人が近くにいない等の理由で、不安から小児科医の受診を希望される方が多いと思います。一方、軽症でのいわゆるコンビニ受診と呼ばれるLINEによる医療機関負担増が問題になっているということも承知しております。

このような中、安心して子育てできるまちとなるために、コロナ禍を機に広く導入が始められたオンライン診療、こちらが保護者の不安を解消できるシステムとして考えられるのではないかと私のほうは考えているんですが、そこで、小児科オンライン診療についての本市の考え方がありましたら伺いさせてください。

○議長（石橋邦彦君） 福祉保健部長。

○福祉保健部長（松岡政則君） 日田市のオンライン診療につきましては、令和2年度にコロナの感染防止の観点から、オンライン診療の導入費用を医師会に補助したということがございます。それで、全ての医療機関ではございませんけれども、導入が進んでいるという実態がございます。

今後は、それも使ってといいますか、オンライン診療の利便性も含めて、今の現状も含めながら、使いやすいソフトといいますか、アプリといいますか、導入、そういったものも考えながら、再構築が必要ということであれば、そこも含めてやりながらオンライン診療を進めていくということを医師会にお願いすると同時に、また、利用する側の保護者の皆さんにも、今、そういったことが対応できるということをも十分また周知も図っていきたいというふうに思っております。

以上でございます。

○議長（石橋邦彦君） 11番 中島議員。

○11番（中島章二君） 厚生労働省が出しているオンライン診療の適切な実施に関する指針では、情報通信機器を用いた診療は、医師の不足する地域においては有用なものと考えられる。さらに、新型コロナウイルス感染症の流行により、医療機関を受診することが困難となった患者や宿泊療養施設の患者への医療提供手段としてオンライン診療が利用されました。このような背景もあり、今後、さらなる情報通信技術の進展に伴い、情報通信機器を用いた診療の普及が考えられるとありますので、私たちの日田市が子育てしやすいまちとなるために、今後10年を予測して、小児科医療体制について、医師会の皆様や大学等、関係機関と協議、連携して早急に整備を進めていく必要性を感じています。

医師不足の課題解決や医療機関関係皆様の働き方改革につながる可能性のあるオンライン診療など、いろいろなことを調査、研究して、日田市が安心して子供を産み育てることのできるまちとな

るよう取組をお願いしたいと思っているところですが、市長、今のやり取り等を聞きまして、小児医療について市長のお考えがあればお聞かせいただきたいと思います。

○議長（石橋邦彦君） 市長。

○市長（原田啓介君） 小児医療の体制ということは、先ほど議員おっしゃっているような状況で、非常に懸念している状況です。本当に医師不足ということになりますと、我々がどうかすぐに何か対応できるというような状況ではないと。そういうことも踏まえて、先ほど部長答弁でもございましたように、オンライン診療できるような体制は整えております。ただ、それを運営するアプリというものが、医療が認定するようなアプリというのはなかなかなくて、今朝も報道でありましたように、一つ、二つ、こういったアプリが認定できるようなものが出てきたということでございますので、できるところからそういったものを通じてでもやっていければというふうに思っております。

本来であれば、NICUみたいなものがあればいいんですけれども、この維持管理と医師の確保というのは極めて難しいというような話でございます。実際、日田で重篤な状況になれば、全て聖マリアに運ぶというような状況です。先般も実はドクターヘリで運んだという事例がございました。

我々としても、そういう救急医療、特に救急医療に関わる部分に関しては、高速的な移動というものを考えなきゃいけないということですので、ドクターヘリの利用ということに関しては福岡県、そして大分にも行けるというような状況を今整備はしておりますので、できるところ、そういったものを駆使しながら、何とか医師不足も含めて解消していただければなというふうには考えております。

○議長（石橋邦彦君） 11番 中島議員。

○11番（中島章二君） 小児医療について、救急医療についてはいろいろ課題があるかと思いますが、ぜひ小児医療についてはもう特化して考えていただければと思っているところでございます。